

バスト ス週報

第三二七号
昭和三十一年
七月十五日
発行

DIRETOR
KOITI MORI
REDATOR
SHION ODA

RUA PRES.
VARGAS 188
C. P. 112
BASTOS
C. P.

代
一
80

飼犬に手をかまる

一 十紙が投じた石の波紋

去る七月三日の十紙社会面に「私は抗議する」と云ふ、当地榎常孝氏がいかにも詐偽漢であるかの様に見える記事が騒々しく出ている。その全部をここに再録することにはできないから、かいつまんで要領だけを記して見ると

- 1 榎氏が大阪山口県の戦災孤児を若干名訪日の帰途つれて来たが、その中に高松千尋(24)という孤児でない青年がまじっていた
- 2 彼は渡航費として二十万円榎氏渡した
- 3 榎氏はそれを着服し、渡航費は他の孤児同様政府の貸付金を以てし、証書(葡文)に署名させた。渡航後請求しても言を左右にして返してくれない
- 4 其後高松の母親からアメリカで渡航する宇佐美という家族に二十万円托送し榎氏に渡した。土地購入資金であるがそれら榎氏が着服して渡さない
- 5 榎耕地へ入植以来日本の話とは全然ちがいが長く居れば居る程借金がかさむので榎田氏(崎田氏ならん)に仲介入った
- 6 らい退耕した
- 7 榎氏と新聞に、こういう話をすると名譽毀損で四十万円払はないでよと、という一札を榎氏から強制的に書かされた
- 8 彼は母親の心痛を知り就職の必要から、榎氏を悪しむまに触れまわったが大抵相手にはこれです、というものの此のフクレ青年の言をとり上げたのは、敬愛する十紙であった。この記事を見た南米時事園田記者(近くパ紙入社の由)、農田ドリル等バンストス縁故者は、そんな馬鹿なことを、思ひやうも実相を知りんと急遽未植した
- 9 海外協会連合会の太沢氏は「移住振興が叫ばれている折柄この様な悪質な移住者を喰い者にするのはいらぬのは誠に遺憾だ、徹底的に調査したい(サ紙記事)と同じくわさ()調査にやつて来られた

二 ジャーナリズムの暴力

バストス連合日本人会では榎氏が重要な役員でもあるので、入植準備の忙し

ALFAIATARIA IMEPERIAL

シゴトヲ
シテモ
カタノケズ
シ又丸山ノフク
バストス 丸山洋服店



WAKAMOTO

わかもと



胃腸を丈夫にしませう
日本のわかもと
いつも こうして
ほがらかに くらせるのは
わかもとの おかげ

製造元 東京わかもと製菓株式会社
伯国総代理店 聖市
パウリス夕製菓会社
社長 中久傳益太郎
C.P. 三六五六

を本田總務が、かけまわり、海協の大沢氏園田記者が榎氏と立會し榎氏の分をきく會を開いた。畑中仙次郎氏の好意でサロバンを開致し、連日会から谷口、上面、本田、友人では池田藤原、畑中、榎原、ムラ板崎、日毎、代理、浦、週報、織田、榎孝一、宇佐美、主人、農場、ら、榎井、農学、士、青藤、部長、等、証人、関係者、が、傍、聴、する、こと、と、な、った。

この会見調査は、順を追って書くこととするが、この榎氏を被告とする会見は、判った。サ紙の記事は全文捏造であることが、高松青年の申立てを無批評にとり上げたもので大新聞を以て誇るサ紙の記事を、良識報に對する、軽率ぶりに對しては、良識

のあるものなら誰し眉をひそめるたろう
七月の十日の記事は早くもラジオクル
ツラの吹本氏が取上げて三ノ時の新聞
に朗読したし、新聞は各地へ發送されて
いるから津々浦々此の横事件はあやま
つたまま伝えられ、横さんを知らぬ人
も「バスターにはすごい奴が居る」とい
同達った感じを持つに到るであらう。サ
紙の記事通りであれば、何と罵られても横
氏に文句はあるまいが、實際ありもしな
い捏造記事だから、やうれた横氏にとつ
ては、分迷惑な話で、その為めに社会
的に信用をおとし、経済的に圧迫が加わり
事業の上にも蹉きがあるのは、益し自然の
成行であらうから、サ紙は何のふくむ処が
あつてかかる暴力を横氏に加えたであら
うか、若々の常識では判断に苦しむので
ある。ひとがその為めどの位迷惑をしよ
うが苦もうが知ったことかというならば
ジャヤ十リズムの暴力は悪魔の所業とし
て呪われるであらう。

高松青年が總領事館へとびこんでわめ
いた話は一日を争つて読者に報導しなけ
ればならぬ程の事件ではない、高松の云
ひ分さき、被告の立場にある横氏の云
分をさいてから發表しても決して「三ノ
ハ」を失うものではない、その上で、横
氏に男はけしかりんと大いに筆誅を加
可きである。

私は横氏を護辯護しなればならぬ人
間ではないが新聞のこうした記事の取扱
いには一種の嫌悪を感ずる、聖市の大新
聞とこちらが尊敬している文上、この種
事を平然とやられると執持ちがわるい
新人の言をけを取リ上はて被告の言をさ
かない裁きは戦犯の類なら知らず法廷
にはないだらう、世人から尊敬される地
位にあるジャスターは自ら高き禮度を講
り無冠の帝王たるの自負をもつてほし
サ紙にお願ひする、横氏の言ひ分をさ
いて正常な判断をなす、もう一度この記
事のあやまりを正せるか、正しく報導し
てもらうたい、筆力も發表力もなき者
を無情に切りすてごめんでは正しから
暴力である、やうれた者、まことに救
のない筋の通りぬ話ではないかと思
うか、どうであらうか。

横 常 孝 氏 を 調 査 す る

前述のように連日会では海協連の大沢
大作氏の調査の便を計り、折柄末植中の
園田記者と共に横氏を調査する会を畑中
氏のナロンで催し、十名程の人が傍聴した
○まず横氏のいい分をきこう
私は一九五五年七月訪日の節戦災孤児
に渡伯の途を通じて数名の青年をつれてか

SAPATARIA HAYAKAWA
アナタの脚線美は
早川のクツで
一層の光彩を放つ
フツノコトナラ
ハヤカワへ
オネカケクネサイ
早川靴店



えることになりました。乗船の日が過
てから例の高松千尋が母親と共に渡伯を
申出ましたが、孤児に途を拓く建前であ
るから再三断った処、伯國で生きる道を
求めるより外に道のない事情を話し、一孤
児として連れ去られてくれと功願するの
で愈々上船回際に再び上京して手続をし
ました。その時母親が二十一万円私に手
交し一万円は上京その他の雜貨、二十万
円は保証金とする旨申出たので、恰と
私が「ラジル」からの送金百コントを入手
できなかつた為め、高松母子承諾の上で
その金を預り、孤児同様の手続をしたも
のであつて、彼が読めない葡文の一枚に
署名させたものでありませぬ（横農協
の横井君の証、その葡文には横に日本文で
訳文がついてゐるのも高松の言は偽です）
私のあつかひした二十万円の内九コント一
二六針は私の農場へ来たから高松に渡し
て居ります（帳簿をクロン提示）次に半佐
美一家が渡伯する際高松の母が土地購入
資金として二十万円を託送したと申立て
て居りますが、半佐美家は戦事末で人で
渡伯するといつても仕度金も充分でない
ので、高松の母に借りたもので十五万
したので、私の滞日中にその話が出来、私が
保証人になつたわけですが、その時の約束
では着伯後すぐ返済すれば十五万円で
いが長引くようなり利子を加えて二十万
にして返してくれ、但しその二十万円の
息子の千尋が獨立した時土地購入資金と
して有効に使用してくれと申し居りま
す。これは母親の書面に明記されて居り
ます（と横井君代つて読む）
それから高松の人物についてですが、家
庭的にも不幸な生い立ちをしてゐる為め
と監督者なく野放図な生活をしてゐた為
め手もつけられぬ青年となつてしまひ、
私の農場でも実はもて余して居りました
（この件は傍聴者が数人の証言あり）
その内人生修業に出たいと申出たので
農業移民として渡伯したものは四ヶ年は

聖市のような都会へ出てはいけないうことになつて居ると説諭したかきません一方農場では一人教儘をするので彼のような者とは一しよには助けないう抗議が出るので、リンズの吉田柔道場主の世話でリンズを働くことになりましたが一ヶ月も辛棒でさお聖市へ来たことをあつて知りました

以上は要点だけをまとめたものである之に対し、結局税金を櫻氏が預つてゐる(形の上で)から、どういふ問題が起るのだから精算して返すなり、問題解決する迄銀事館に供託する方が賢明ではないかとの提言に対し、海協の大沢大伴氏も、さきればそれが総当りだろうといふ意見を吐かれ、櫻氏は母親此意見に従うつもりだと表示した

こゝ迄本文を書いた時サ紙同様の記者がバウリス夕新聞にも出たことがわかり文の内容は、やはり高松青年の言をそのまゝ取り上げたものであつた

曰く陽のあたため太陽の家として櫻農家の誤報をしてゐる、大阪には太陽の家があるがバウリスにはそんなものはない何れにしても戦後派の青年の利己的な言を無批判にとり上げた事は大新聞のミスであるし、櫻氏とては、よく調べず、さういふ青年を連れて来たことは、それこそ不明の致すところであらう、俗にいう銅大に手をかまれたものであらう

櫻氏の調査はまだ以上で了つたわけではなく、海協の大沢氏も未だついでとあつて園田記者諸共櫻農場を視察し、青年連とも面接してゐるので公正な報告を待つこととする(次号へつづく)

筆者 糸音

聲明書

「私は抗議する」というサンパウロ新聞の記事に対し、櫻農場協農一線会は此処に聲明書を發表する

本会は一九五五年十二月櫻農場に入植した青年十二名を以て發足し、櫻農場に於ける協同事業の構成分子の相互の親睦をを固り事業完遂のため協力一致し、櫻農場の發展に寄与する事を目的とし、会議の決議により民主的に運営して相互扶助の紐帯を維持して来ました

入植第一年度は櫻会長とフメイアの契約を結ば、種子肥料等の経費の半分は会長より扶助を受け、食糧費生活費の前借は会員の負担とし、決算期を十月に置き、月々の小使費を二五〇クルセイロとして、会員は男女を問わず平等とした

高松青年、谷口光男は当初本会員であ

りましたが五月末兩名が人生修業に出かけるという事で退耕しましたので全会員の決議により、除名処分いたしました

高松青年等は以前より日常行動に於て会員の統一を乱し、全の体面を汚す行為があり、数度懲責したことがありましたが、かかる青年の軽薄な言葉を信用し、サンパウロ新聞に掲載された一方的な記事は全く嘘偽があつて、単に櫻会長の名誉を毀損するのみならず、協農一線会の事業に対する侮辱である、若し此の爲の櫻会長が事業放棄の止むなき場合にはサンパウロ新聞社に於て協農一線会の今後の面倒を見るための覚悟はあるだろうか、然る可き謝罪の辞を公開されることを要求する

一九五六年七月八日

櫻農場協農一線會
委員長 楊井 健

聲明書

バウリス連合日本人會は、今回のサンパウロ新聞及バウリス夕新聞の所謂、櫻常孝氏事件の記事が、農村生活を嫌悪するの餘り、櫻氏の絶大な恩義を忘れ、伯國法規を犯して都会へ走つた一戦後派の青年の言葉を其儘、何等事實を調査せず發表された事を甚だ遺憾とするものである

尚当会は慎重な調査の結果、当会の代議員会議長の要職にある櫻常孝氏が、眞名にかくれて私腹を肥やす如き事なきを確認し、海外協会連合会大沢大作氏の公正なる調査を信頼するものであることをここに聲明する

一九五六年七月十一日
バウリス連合日本人會

バストス寫真展覧會を見る

バストス寫真展も今年で九年というから
 たいぶ枝ぶりもよくなり、板のあたりにも
 も柔らかない昔が生え、しつとりして来た
 感じである。今年は出品数八十点、数は別
 段多くはないが、質は大へんよくなり、どの
 一枚を手にしても一応頂ける水準に達連
 している。選にしてもピラケニンが会の
 一流作家の選であるから、まづ申し分のな
 いものとして信頼できる。
 ○安齋君は、これ迄も可なりな作品を出品
 して来たが、めぐり合せが悪かったが、
 あまり上位に入選しなかつたように思ふ
 今一押しという感があったが、今回は
 大量に上位を占め、消飲をさしたことであ
 ろう。紺部一位(炭火)二位北伯移氏共に
 出色の出来であるが(炭火)は花火にも受
 とれる火花の瞬で美しい網膜の夢とい
 った感のものだ。選者が一席に推したの
 も類型の少いかわり、た作品であつたから
 であらうが(炭火)の題名は、いさかあいま
 いである。(北伯移氏)は歌の一隅に眠る
 一移氏の傑作を撮つたものだが、容体背景
 から、然とくも出される一沫の哀愁が
 漂い、ロマンチックな何物かを感はせてい
 る。よ、秋ある素材で、しかも見のがしやさい
 構図、相賞に値する作品と思ふ。風景は
 は(雨季)が佳作に入つてゐる。園題は
 新しいといふ思はれぬが、後ろの山々が雨
 か霧の爲めに白くかすみ、前景の堤や一
 角との巨巖感を出し、引のほさは、調が
 絵画的な美しさで、非常にまとまつた安定
 感を出している。ドギツイ寫真の多い中
 で、女人の湯上りを思はせる美しさを示し
 北し私が選者なら三席以内で推したか
 知れない。尚同君の(破損)は佳作である
 が、私は採らぬ。安齋君は、またぐんぐん
 のびるように思はれる作家である。
 ○橋本君、クンといつては友達扱いで、ど
 うかと思ふが、特別にサマといつては、か
 えつておかしからクンで御許しね、かう
 といつて、この橋本君寫真展は古くない
 いわは戦後派で寫真もそれです。さうい
 度であつた。それが訪日(一昨年)をきか
 けたに、ふんと熱をあか、名所旧跡の觀光寫
 真をとつて、いろいろの一念發起して、同
 いとるなら、と芸術味や報導味や、い
 ろの味を加味することにとめた。申す
 り、数多くの作品を、もちかえつた。そ
 れが又評判がよかつたので、爾後忙しい仕
 事のヒマヒマを偷んで、新しい分野の同
 拓にのりだして、いろいろのこゝろある。若
 い連中に伍して、堂々作品の上でトツ
 切つた今回の手帳は、橋本君が感賞の

ALBATROZ



○アルバトロズ をつかつたら
 ほかのサボンは、つかえませんわ
 ○ほんとうでございませぬわ
 よこれのよくおちること
 手のあれないこと
 くづれないこと
 芳香のあること
 とてもすばらしいサボンですわ
 この通り大好評のアルバトロズ
 各商店でお求め下さい

娘の子 求む
 聖市ヒネーロスの商家 家事の手伝
 をする娘の子一四才以上二〇才位迄
 裁縫その他の学校の通う便を与えます
 既に三四人同家に働いて居ります
 詳しいことは左記へおたがね下さい
 シネマ館上
 福森家具店

点をハツラツたるものをもつてゐること
 をはつきりと示したわけである。
 課題一席の(雨の朝)はバストス市内の
 スナブであるところ、親しみがあり、堂
 々たる本格的なスケッチである。実うまい
 瞬間を捉えたもので、一秒早くても一秒お
 そくてもあの構図を再び作ることは、でき
 ない程の面白さ。背景を右左側の破損
 したレンガの家と遠景の組合の建物など、
 平日ではとても表現できない気合を折柄
 の雨によつて全く別物のよくな風物とし
 て、立派に物にしてゐる。前景の水の流れ
 駿のあとをなす、すまじく表現されてゐる。
 進まぬまに、見る快作であらう。
 三席の橋本君も、これに訪日の際の作
 品であらう。この一連の作品は、兄となり弟
 となつて、効果をあげてゐる。ミレーの晩
 鐘とか、かり入れなどをも連想する田園風
 景で、何れも画調が柔かく、ふわりとした
 感じのあるのが、快く眼にうつる。
 紺の四席(不具の人)も、街頭スナブで
 不具の人物より寧ろ彼にほどこしをせん
 と踏みかかつた婦人のホーズが、すほらし
 く印象的である。ある人の評によると、不
 具者のうしろの手が、目ざわりだとのこ
 とであつたが、多少をういう点もある。た
 其の他橋本君は佳作に二点も、いこん
 で居る。やみつきにならぬ、い(以下)

農家の皆さん

現金でアジャーダしますよ

州政府は農業の機械化によって農家各位が生産と利益の増大を計り、各位の生活向上を願うものである。資金が要すれば融通してあげます。各地のカリフォルニア州にアタロノモを訪ねて相談しなさい。(ワシントン市アイアナセス街一四三のD.P.ボーンガスを訪ね下さい)

もう一つ

自作農、歩合作者、借地農 各位 諸氏の機械化農に対して貸付を行います。生産物拡充について州政府は出来る限りの援助を各まぬものです。

「一台のアラードは七人のエンシャムにまさるし」

「各地の農業技師に相談せよ」

前記のようなホヌヌをツパンからバストスへ送つて来た。ところどころにロケナメカニカッソノヒカロケナアケリクルトールレスとか記してあるから、トラククタをもちている程の人によびかけている。アラード、ファンター機、除草機、施肥機、アラード、殺滅機、等の購入にツカツタ資金が必要なら、州報がカイシャエコノミカで用意してくれるというわけである。考えて見ると農業者にとつてはありがたい政府の親心で、各々が渡伯した當時には、こんなことは夢のような話でさいたことでもなかつた。政府にたいして力があつて農業政策というものの農業立国たる當國のような国には非常な大功であること。がはうきりして来たのであろう。農業政策がはうきりしていても、金がなければツクにもなりぬ。小さな農家に進金をユールしてやる力は、今はなかつたのであろう。それがだんく、出来るようになったら、たつと、この国力の増進を示すものがあり、たく且つ喜び、いことと云わねばなりぬ。

冬休

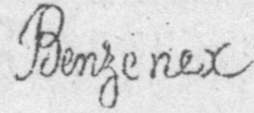
- 父に助手母に助手 出来 冬休 氣子
- 黑板をぬりかえてあり 冬休 北眼
- 冬休 医学士にて石を守る 冬休 風太郎
- 子を連れし学生主婦 冬休 枯木
- 冬白く肥えて床りぬ 冬休 未歩

ベンゼネックス

フランタを襲う害虫は、みなちがった種類で甲の薬も乙にはききません
棉・西瓜・珈琲・野菜をこれを用途に従つて葉もろがいます

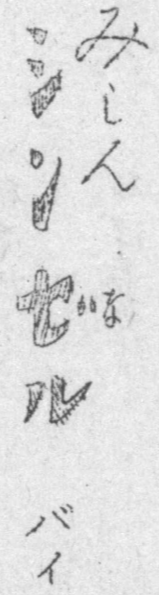
ベンゼネックスは、それがちやんと別々にわけて用意してございます。

肥料も同じこと。バタヤ用野菜用
棉用と、ちやんと別々にわけて用意してございます



御注文次第本社より直送するより手配いたします (條件ござります)

申込所 太郎田商店



シンゼルの売行は見てくんさい
ほんに漆かけんの

太郎田商店 みしん部

水本九十四翁昇天

九口リアエ区水本章氏の祖父水本章平氏(九四〇)は去る五月十四日故郷岡山県陽南で昇天した。去る七月七日聖市よりカキ水本のかある氏のハイ春造氏が入植祭見物にえられたついでその話を次のように話した

「おじいさんは七十七才で渡伯し以来十七年フラジルで暮したが、日本見物を思い立って本年一月下旬アフリカ丸で飯沼田豊次郎史婦(元スガリヤ在任)と一緒に訪日し三月三日神戸に上陸した。岡山県豊陽町が故郷でここの実家で孫娘史婦たちにあつて安心したためか急に身体がわり、とこのこと病氣もなして五月十四日なくなりましした。バストスの皆さんにもいろ／＼お世話になりました。また大高峯ですから亡くなつても仕方か向うません。同翁は高峯にもかかわらね目も耳も記憶もはつきりして居り、渡伯以来結婚の世話をすべしと何十組、歌も唄へばおとすへ舞うという愉快な大老であつた。多分最後であつたと思つて「かうたを大事にすれば長命でさる」という見本を身を以て示した人であらう。

御通知

生長の家バスター友相愛会長梶田恒博
招氏は家事の都合にて辞任せられまし
た件につき誌友一同従来の御盡力を深く
深く感謝するものであります。就ては誌
友一同合議の上後任会長として吉浦秀次
郎氏を推挙し、梶田氏に顧問を御願いま
す事に決定致しました。

右は誌友の方々の内に通知漏れの方があ
るかも知れませんが、ここに紙上を以て
発表御通知申上げます

生長の家バスター聯合
誌友相愛會

各位

御礼

金彦百針也 (蘇青経営売店へ)

右は入植祭演芸会場売店へ寄贈して下さ
ったものです。ありがとうございます

バスター連合青年團
前山商店様

御礼

右今回亡父光助氏死去に際し、追善の爲
め、当会へ御寄附頂戴さされた。致しを以て
厚く御礼申上げます

昭和三十一年七月九日
バスター佛教會

石田良一様

御礼

第廿八回バスター入植祭リ、多量品
を左記の商店様より御寄贈下さいました
ありがとうございます

- 古田菓子店様 守越商店様 西川菓面店様
- 重道商店様 太郎商店様 藤原金物店様
- 板垣商店様 板垣藥局様 水口商店様
- 池内バナル様 三野菓子店様
- 前山商店様 早川商店様
- 坂東商店様 前日商店様
- 佐々木藥局様

故吉永宗義氏廿七回忌法要
第廿八回バスター入植祭慰霊祭
御香料献進者芳名

去る七月八日故吉永氏の法要を兼ねバ
スター入植祭慰霊祭執行の節は万幸不
届にも拘らず多敷御参詣下さり、御
香料を賜けり、関係者世話人一同あり
たく感謝いたし、存じます。ここに芳名
を記して御礼の辞に替えます

- バスター連合日本人会長
- 慰霊祭係員
- バスター佛教會長 石橋長
- バスター青年團長 西好
- バスター婦人會長 池田好
- 故人関係者 畑中仙次郎
- 近世話人 佐藤福太郎
- 板垣義利
- 後藤利義
- 吉田与三
- 吉川一馬
- 山中三郎
- 山田春一郎
- 中国華一人
- 西静

- 山中弘様 山中三郎様 鴨原竹藏様
- 谷口章様 天野賢治様 南米銀行様
- 渡辺治郎様 ウヰノ毅田様 今井銀一郎様
- 佐藤金作様 ツシ古田様 池田ヨイ様
- 栢野益子様 此野内芝爾様 山川元キ様
- 池田シマ様 小倉一三男様 湯井安太郎様
- 島本エイ様 齊藤トワ様 中野昭尾様
- 島本サノ様 古賀渡様 石川山内様
- 石橋長史様 原田五郎様 豊田仁吉様
- 畑中忠雄様 全花倫一様 京野四郎様
- 伊藤栄三郎様 戸川守様 大野信一郎様
- 川辺イサ様 杉山寅三様 磯谷花右門様
- 白銀千之助様 小橋宇三郎様 落庵作市様
- 宇都宮キク様 阿部浩三郎様 中久川辺様
- 全川悟様 梅山ヨシ様 田中聖様
- 新津牛丸様 諸角与吉様 板垣ハル様
- 奥山様 伊勢島者一様 池田正雄様
- 藤森しゆ様 吉浦カ木様 垣内原太郎様
- 豊島流一様 西道秀一様 吉浦秀次郎様
- 杉浦シカ様 首藤昭一様 飯沼高枝様
- 藤原玉古様 山本留尾様 木口正天様
- バスター婦人會様

- 一金彦百 タルセロス也
- 右全員當会へ御寄附下さい、御礼申上げます
- 宮武昭南様 坂東八郎様 十ノ口
- 高橋勇次様 ハラナ土井様 富岡静司様

ブラジルの薬草

11

十七 日本センダン Meliaceae

科名 楝科

学名 *Melia Azedarach* L. var.

Japonica Makino.

生薬 苦楝皮(樹皮)苦楝子(果)
バストスにもあり、庭園に見受ける
日本では暖地の庭園や街路に植えられ
て、初夏淡青色の五弁花を開く
台湾南支海南島南洋と多少花の色が異
なるが鹿児島市の花が気候の関係から最も
勝れていると思ふ。当地では円錐花序が
のびすぎている上に花色が悪いのはおし
いことである。

序でに花の色ですが楝の花でも北海道
のものは色が白く同じ種だが台湾の北
投海岸及草山等で見ると楝花といつてよ
い程赤い皆様が故郷で見られた楝も年々
より同花に遅速の差があり、花の色も毎
年ちがって居った筈です。

私は楝の枝を切つて処理し出荷期を考
えムロに入れて積算温度を加減、出荷前
本当の色をしてお見せしたが本当にきれ
いな楝色は花の揺らぎで本当にきれいな
ものはだといわれまじい。大抵のもの
自然のままのものがよいが自然の不備に
一寸としたアジズをすることを人によ
ころはこれ皆が意識せずに余計金を投
入することになります。ついでだから申上
れますが濠洲のユーカリ四九五尺も伸び
たものがある相です。これらの木も根の
吸収作用、根圧蒸散作用と均合がと
れているから、長をのび、高さに水を
思ひます。人間が五、六尺の高さに水を
あかすことは容易ではありませんが、此
の世界一高い木は、そこで根で吸ひ上げ
水を葉の裏の気孔から出して居る訳で、
自然に吸ひ上げ、力を利用することには面
白いこと、木に着色をしたり、あり
ふれた種類の功花によらないきれいな
着色が出来、最も努力と資本で都市で
競争される方に考えていたたび度、こ
との一つです。いつもくとい事を書いて
恐れ入ります。

楝の皮苦味はマルゴシンで外軍薬
七%位を含む、中南支南方で戦った兵隊
は蛔虫になやまされまされたがサントニン
入等夢の楝を話したので、此の皮を
一人当一日量一〇gを煎じ三回にわけて
のませました。量を多くしてもサントニ
ン、アスキスの楝が副作用がない上に、よく
さきまされた。同部者である戦友達もその
ことを話しあったことでした。日本や中
國その他の東洋諸国にどこでも苦楝皮はサ

ナカ虫や蛔虫其他の駆虫薬として効果を
あけて居ることを申上げておきます。
○皮膚のあれる人は熱した果肉をころど
ろにしぬるとよい。日本ではヒビヤアカ
ぎれの薬として使つて居ります。
センタンは双葉より芳しのセンダンで
はありませぬ。此の楝は肥大成長早く一
枝板のメイ、サ等諸人の求むる條件をそな
えて居る上、美麗なものである。又箱材其
他家具裝飾用、軽軟材の一つとして将来
浮び上つて来る時があると考えられる。
このものから作つた新薬にサウベランが
あり、薬屋さんに売つて居ります。
タイワンセンタン *Melia Azedarach* L.
の皮も同効
文庫三浦伊八郎 工業化学会誌二六、五九
(筆者は 小野山菱村先生)

讓 鮮魚店

最良のホント。目下盛業中の店
製氷機付 バルコフ・フリゴリフツコ
テホジット用冷蔵庫等一切完備
右轉業の爲め譲り度し
委細 御面談
パール 柳 浦



キカイの据付と修理

- モートル修理 (ジーセル・ガンリン・モトリカ)
- 水上げポンプ (ピストン・タービン)
- エンカナメント 一功
- 農業機械据付修理
- 仕事の大小を問はず御用命次第
出かけてまいります

バンダイラシテ
組合の裏側
山中 正夫



本紙 値上
物価高騰攻勢に圧倒され止むを得ず
来年から 誌代を一年金百クルル
といえます。あれからず
バストス週報 社

(nº 11) Continuação

SENH FAMILIA

-Fector Malot-

- Bravo, disse ele, bravo, na perfeição. O teu jogo de fisionomia é excelente. Ó rapaz, que eu tinha antes de ti, punha-se com um ar de espectralhaõ, que significava bem claramente: "Já vão ver como eu finjo bem de estúpido." tu não dises nada, tu poê-te como és, a tua ingenuidade é admirável.

- Não sei o que hei de fazer. - É por isso mesmo que és ótimo.

Amanhã, daqui a poucos dias, já sabes perfeitamente o que has de fazer. É então que te deves lembrar do embaraço que estas experimentando agora e fingir o que já não sentirás. Se puderes tornar a encontrar esse jogo de fisionomia e essa atitude, predigo-te o maior sucesso. O que é o teu personagem na minha comédia? o dum pequeno aldeão que não viu nada nem sabe nada; chega a casa dum macaco e achasse mais inepto do que o proprio macaco; daí o meu titulo: "dos dois o mais estúpido não é o que julgam"; mais estúpido do que "Joli-Coeur", eis o teu papel; para o representar na perfeição, bastava-te ficares tal qual como és neste momento, mas como isso é impossível, deveras lembrar-te do que foste e tornar-te artisticamente o que já não seras naturalmente. O creado do snr. Joli-Coeur" não era uma comédia grande e não levava mais de vinte minutos a representar. Mas o nosso ensaio durou mais de tres horas; Vitalis fazia-nos repetir duas, quatro, dez vezes a mesma coisa, tanto a mim como aos cães.

Efeticivamente, estes tinham-se esquecido dalgumas partes dos seus papeis, e era necessario ensinar-lhas outra vez.

- Conversando assim, atrevi-me a dizer-lhe que o que mais me admirava naquele ensaio, fôra a paciencia inalteravel de que ele déra prova com "Joli-Coeur" e os cães, como comigo.

Sorriu-se carinhosamente. Os meus camaradas, os cães e o macaco, tinham sobre mim a grande vantagem de estarem habituados a aparecer em publico, de modo que viram chegar o dia seguinte sem receio algum. Para eles tratavam de fazer o que já tinham feito em vezes, mil vezes talvez. Eu, pela minha parte, não tinha aquella confiança e socoço deles. O que diria Vitalis se eu representasse mal o meu papel? o que diriam os outros espectadores? Esta preocupação perturbou-me o sono, e quando adormeci, vi em sonho uma quantidade de gente que ria, ria, sem poder mais, tanta troça era a que fazia de mim.

Tambem era bem forte a minha comoção quando no dia seguinte saímos da estalagem em direcção á praça onde devia ter lugar a nossa representação. Depressa se arranjou o nosso teatro; consistia numa corda atada a quatro arvores de modo a formar um retangulo, no centro do qual nos collocámos. A primeira parte do espectáculo consistia em diferentes peloticas executadas pelos cães; mas o que estas peloticas foram, não poderia dizer-lo, tão occupado estava a recordar-me do meu papel. Acabada a primeira peça, "Capi" pegou com os dentes numa bandeija, e andando nas patas trazeiras, começou a dar a volta "á respeitavel sociedade". Quando os soldados não caem na bandeija, parava, e pondo esta no meio do circulo, fôra do alcance das mãos, pousava as duas patas de diante em cima do espectador rebelde, ladrava duas ou tres vezes, e batia pancadinhas na algibeira que queria abrir.

Durante este tempo, Vitalis, sem dizer uma palavra mas sem tirar os olhos da bandeija, tocava nodinhas alegres na rabeca, que levantava e abaixava conforme o compasso.

"Capi" voltou daí a pouco ao pé do dono, trazendo orgulhosamente a bandeija cheia. Era a minha vez e a de "Joli-Coeur" de entrarmos em cena. Foi assim que tocando em surdina uma musica guerreira, annunciou a entrada do sr. "Jolli-Coeur", general ingles, que ganhára os seus

postos e a sua fortuna nas guerras da India. Até aquele dia o sr. "Joli-Coeur" tivera por criado unicamente "Capi"; doravante desejava ser servido por um homem, visto os seus meios permitire-lhe este luxo. Os animais já tinham sido por bastante tempo escravo dos homens, era o tempo das coisa mudarem. Enquanto esperava que esse criado chegasse o general "Joli-Coeur" passelava para traz e para diante, fumando o su cigarro. Era curioso vêr como ele deitava as baforadas de fumo para a cara do publico!

Impacientava-se o general, começava a mexer os olhos como alguém que se vai zangar; mordida os beiços e batia com o pé no chão.

(continua).-

御 礼

去る五月十三日愚妻不注意の爲め空井戸に墜落し危く一命をおとす処でありました。が皆様方の御救援により助かりました。かりか小生旅行中ツッパン病院へ御世話下さり、等誠に一方なりぬ御世話と戴きました。その上救々御見舞を頂き厚く御礼申上ります。

出聖御挨拶

私共一家永らく御地の皆様から御愛顧を蒙り且又、前掲の愚妻の件でも何等御恩報しも出来ず申わけなく存じます。然るに家内の容態快方に向いつつあります。尚暫くの養生を必要とし、予ね息子共の希望もあり一時出聖することになりました。何れ私共は再び御地上を後に送りて頂く所存でございますが、その節は御見捨てなく御交誼の程願上ります。先は御礼を兼ね御挨拶と

一九五六年七月十二日

穂 升 田 一 支

各 位

御 礼

一金 貳 コントス也

右は貴下御出聖に際し記念の爲の御見舞返し之意を以て當會へ御寄贈になりました。ありがたく頂きます。

バストス連合日本人會

穂 井 田 一 支 様

幼稚園イカベル先生に感謝

シカラ区本田正雄さん子福者だが長男の道弘君以下愚臣(タタオミ) ナイル エウザニオ四名全部で五名が、二十数年の間に成す幼稚園の御世話になり、一人のこゝろイカベル先生の御世話になつたというので、今年未子のエウザさんがかつちめを承り、六月末日一家揃って記念品を携えてイカベル先生宅を訪問し心から御礼言上に及んかといふ。この丁寧な御礼にイカベル先生も数年を遠想し十八歳のミチヒロ君がヨナチに通つたといつたことであつたかと、本田家の好意をよろこんだといふ。一寸類の少し住話である。

御 礼

去る入植祭の演芸会に出演致しました。御最良とあつて多大の御礼をいたさしました。厚く御礼申上ります。

藤 川 せ 二 枝 川 辺 あ き

各 位 さ ま

御 礼

去る七月六日は改藤川義弘の一周忌でございます。心おこしました。心ばかりの法事に皆様より御香華を御手向け下さいまして御厚情有難く御礼申上ります。

藤 川 み 元

西 徹 様 戸 田 幸 様 崎 田 春 一 様

橋 本 輝 敏 様 小 沢 将 男 様 同 窓 生 御 同 様

カギノス島本様 西川誠一様 若橋登重様

湯井浅治様 島本さのり様 古賀夏様

奥田ジュカ様

全伯陸上大會

バストスよりの出場者

去る七月三日ホムンペイに行はれバ線陸上予選の結果、バストス軍奮斗したが優勝できなかった。

来る七月廿一日廿二日サンパウロ市チエテラフラノ競技場で行はれる第十九回全伯陸上大會へバストスより左記の選手が出場と決定した。

・青年之部 東、松原、中島、前山、戸田、女子之部 大野、本田、渡部、佐々木、佐々木、熊原、長瀬、松原

・少年之部 熊原、長瀬、松原、パウリスタク軍總監督 上西、義治、監督 前山、義雄、主将 戸田、幸

選手の出發 七月十九日午二時七分半

もってゆく物 各自出發日の二食分、へんとり持参

注意 少年は出生証明書又は旅券入用

御 礼

入植祭演芸会に出演の処多大の御花を頂きました。個人英団宛と同わす全部の基金に繰入れました。ありがとうございました。

中 央 男 女 青 年 団

各 位